

京都府農林水産ビジョン（仮称）検討委員会（第6回）議事要旨

1 日 時

令和元年7月30日（火）9：00～11：30

2 場 所

ホテルルビノ京都堀川 2階 「加茂の間」

3 概 要

●開会あいさつ

第6回を迎える本検討会、今回はいよいよ中間案の提示をさせていただく。少子高齢化などが進んでいく中、全国の集落の半分以上が過疎高齢化集落となるとされている。6月には骨太方針2019が国から出され、その中では、「関係人口」という概念が新しく示され、国においても様々な取組を進める中で地方創生を推進していきたいと掲げられている。

京都府農林水産部としても農林水産業、農山漁村の対策、防災減災の対策について、積極的に取り組んでいかなければならない。

本ビジョンで検討いただいたものの一部、スマート農林水産業や南北連携などは前倒しての実施に向けて動き始めている。

このビジョンが京都府の農林水産業の新たな一歩と考えている。今回は考え方や将来ビジョンについて、新たな観点やまとめ方がないか、府民に分かりやすくなっているか等について議論をお願いしたい。

9月の議会に提出後、府民の意見等をいただいた上で取りまとめていきたい。

●第5回委員会でいただいた御意見と対応方針について

非常に見やすく、前向きな内容になってきていると思うが、「メディア露出隊」（PRチーム）のネーミングは良いものに再考してほしい。

構成について、イメージ図があるのは非常に良い。将来ビジョンなどを前に持つてくるのも前向きでよい主張。一方で、3つのコアコンセプトについて、「コアコンセプト」という単語がどれだけ農林水産業者に対してPRできる単語なのか。ビジョンという単語も含め、使う方がイメージしやすい単語にしていただければと思う。

推進体制の具体的な中身はこれから議論されるだろうが、一見して分かりにくい。具体例などを入れていくべき。

この窓口は、福祉の地域ケアシステムのようなワンストップ窓口のイメージか。スマート農業や京野菜など様々な課題について、受け身ではなく、働き掛けを行う。新しい関係性を持ち、事業に変えるというのは「おせっかい機能」に入ってくるのではないか。

窓口が、これまでの概念とは違ったレベルにある方が良いと思う。話しかけやすく、敷居がすごく低い、気軽に行けるイメージ。そんな雰囲気があると、企業の人も行きやすいのではないか。農林水産業分野は異業種の企業にとって少し行きにくいと聞いた。敷居を下げることでこれまで参加してこなかった方々も参加するのではないか。

「メディア露出隊」(PR チーム) についてもメディア寄りの名前にしてはどうか。メディアにとっておいしい話がいっぱいあるようなイメージ。例えば、「メディア・パートナー・チーム」などではどうか。

推進体制のところは大切だと思う。3つのコアコンセプトはビジネス寄りのことが書かれすぎている気がして、例えば生活者としてのコミュニティの方への支援などについても分かりやすく記載できればよい。ビジネスは、かなり前向きな記載をしているが、失敗に対しても支援してもらえるような記載ができないか。やはりチャレンジをしないと新しいものは生み出せないで、チャレンジとそのリスクについてもちゃんと考えてもらえるというのが伝われば、気軽に行きやすくなるのではないか。

●考え方及び将来ビジョン（コアコンセプト）について

文化の観点が抜けているのではないか。ICT、センシングなどの言葉は農林漁業者に分かりやすいよう必要に応じて注釈を入れてはどうか。

20年後の姿は、「京都の農林水産ビジョン（仮称）の目指す姿（イメージ図）」とリンクするものだと思うので過不足なく説明するほうが良いのではないか。イメージ図で記載したものを説明するニュアンスと捉えたほうが良いのではないか。

コアコンセプトにはもっと将来ビジョンのことを記載すべきと思っている。総合計画の記載は「京都府農林水産ビジョン（仮称）の考え方」のところに記載しても良いのではないか。

農家民宿などが京都府の中で増えており、特に外国からの観光客向けのおもてなしをすることで世界を席卷するというイメージも必要ではないかと思う。観光の中に教育も入れてほしい。

イラストと「未来志向で進める京都府農林水産ビジョン（仮称）の骨格」だけで何をしたいか分かるようにしたほうが良いと思う。オール京都の関係性ということで、戦略的に京都に移住したい東京の方が全国あるいは世界から集まり、そういう人とコラボレーションしていろいろな戦略、京都府にカスタマイズしたビジネスなどが起こっていくようなイメージがあれば良い。

生産のことは多く記載されているが、販路の話が必要。私が今物を売っていて一番感じている課題は物流なので、会社も一緒に頑張っているということが記載されているとよい。未来を担っていく子供へのアプローチが記載されていれば、より未来志向かなと思う。

今後、京都府が施策を展開し、限られたリソース（人材・物資・資金）を使う上での入口は伴走だと思うが、実際に京都府の農林水産業を豊かにするためには、日本中、世界中の知見・技術、あらゆるものを取り込んでサービス製品を生み出さないといけない。地域の中で解決できないものはたくさんあると思うので、どれだけの窓口機能を果たせるのか。京都府が世界中の知見を集めて解決できるかが問われているのではないか。

ここ何年かで言われていることで、例えば、オープンイノベーション、クローズドイノベーション。競争領域と非競争領域をどういう形で取り組んでいくのか。京都府の田舎であっても、都会であっても産業集積をいかに効果的に作っていくのかということ是非常に重要な視点だと思う。

物を運ぶ、届ける、売れる時に売れる物がきちんとそこにあるという状態から始めないと生産現場の努力が成果につながらないと思う。いかにして情報の精度と鮮度を保ちながら、フードバリューチェーンを逆算したインフラを整えられるか。荷扱いをよくしても構造が変わらなければ意味がない。戦略的な構造を産業集積として用意できるか。ビジョンがいかに素晴らしくても動かしてみたら1人の担当で全部決まってしまうということがよくある。10年、20年を見据えて、全体最適を見据えた個別最適を施策まで持ち込めるかが重要。

伴走は重要なキーワードだと思うが、実際に現場にいるものの立場からすると、伴走の意味が変わってきたと思う。昔は普及指導員などから知らないことを教わってきた。

しかし、今は教える側と教わる側という時代ではないと思う。答えのない時代の中で一緒にどう答えに辿り着くかが本当の伴走になると思う。

弱いものを助けるという意味が言葉の端々で感じられる。今後は、どこまでリテラシー（応用力、活用力、理解力）を高められるか、専門人材をどこまで巻き込めるかで結果が大きく変わってくると思う。オープンなプラットフォームをどれだけ作り、京都府の中でどれだけ提供できるのか。そこで、イノベーションをどれだけ起こせるのかだと思う。

例えば、会社として株式会社京都府農林水産部と捉えたときに、今の世の中には「SaaS

(サース)」と言われるようなクラウドサービスで汎用化された農林水産業ができてきている。それらをうまくカスタマイズし、京都府で生産する側からのリアルなタイムラグのない正確な情報が積み上がっていると、物流から販売まで有効に戦略を立てられる。データサイエンスを活用することで、より有効な戦略につなげられると思っている。

インフラを作るということが産業集積により産業を成長させるために重要だと思っている。

具体的にどこにやってもらうのか想定が見えなくて分かりにくい。3つのコンセプトについても、理解しやすい言葉で記載するほうが良い。また、具体的な内容があればあるほど推進体制に信憑性が出てくると思うので、記載した方が良い。

●将来ビジョンに向けた5つの重点戦略について

戦略4「人づくりの裾野を広げ多様な人材が育む産業・地域を実現する」に、子供の観点が出てくる方が良い。農林水産業を高校生、中学生などに見てもらってこれは魅力ある産業だと思ってもらい、具体的な人生の選択肢に入れてもらわないといけない。そうした中で、ICTなどを活用したこれからの農林水産業の姿をぜひ子供たちに見てもらって、実際に職業の選択先に入れてもらえるようにしてほしい。子供たちが山に入って遊ぶだけでは職業に結びつきにくいので、重点的に検討すべき。

京都府の農林水産業を消費者に伝えることで応援してもらえる。生産者が見えてくれば消費行動も変わってくる。効果を考えた上でプログラムを組んでほしい。

支援や応援ではなく、人生をかけてやるようなもので、片手間ではなくてやっていくように記載してほしい。日本を守っているのは農林水産業といった内容が子供たちに伝わるようにしてほしい。

読んでもらうということを前提に考えると、イメージ図の再掲でもいいので挿絵を入れると見やすいと思う。消費者は座学より、体験することで消費行動が大きく変わるので体験や現場での取組について記載してほしい。

5つの重点戦略と3つのコアコンセプトの関連が分かるマトリックスの図、計画全体のロジックを一枚入れてはどうかと思う。

教育について、農林水産業に関して教科書というか、座学との組み合わせも大切だと思う。映像でのお仕事紹介など副教材的なものでもあれば良いと思う。小学生～高校生への訴求が大切。最近は目的意識をもって大学を選ぶ子どもも増えており、高校との取組も大切ではないか。

●府民向けのPRについて

キービジュアルやキャッチコピーなど、5～10秒で届くシンボルのようなものを作るべき。メディアパートナーというが、メディアに近い人をPRチームに入れて、番組を作ってもらえるようなアンテナが必要である。

オール京都というのをもっと打ち出して、企業、移住を希望している人、一般府民も子供たちも含めてそこへ行ってみようというアクションが起こるようなビジュアルも必要。応援といった余剰の力をもって支援するのではなくて新たに利益を持つためにコラボしようという考え方をすべきである。

ビジョンの中身はイメージ図と推進体制のみで、詳細はQRコードでアクセスするような時代になっているのではないか。

京都府も、広報課がメディアのページなどを買い取り、ツールを持っているので、しっかり活用すべき。ロゴマークについても、宇治茶の世界遺産のロゴと同様に、ステッカーなどを作ってはどうか。一般消費者に気に入ってもらえるPRグッズが必要である。

PRは香川県がうどん県として打ち出しているように、柔らかいイメージで、無関心層にも働きかけていかなければならない。消費してほしいのか、移住してほしいのか、目的に合わせて、SNSやサブカルチャーを取り込むようなPRでも良いのではないか。費用がかかるものなので、ターゲットを考えるべき。

パブコメや現場の意見交換も良いPRの場になるのではないか。

何を目的に何をPRするのか。農林水産業を成長産業化させるために、多くの府民に参加してもらおう。プロセスをPRすることは、賛否しかおこらず、味方以上に敵が増える。本ビジョンにも記載があるが、「一人一人の夢が実現する社会」であれば、世界で活躍するスター選手と同じように世界を目指すような、具体的で分かりやすいものにすべき。京都府には成功事例があり、チャレンジできる環境が整っており、ワクワクするようなことが伝わればより分かりやすくなり、府民の方々も応援し、期待をして、結果的に京都府への賛同や協力につながるのではないか。色々なPRの視点があることは教えてもらったので、集中と選択をしても良いのではないかと思う。

結局売りたいものが何か分からなくなるので、ビジネスという点でいえば、儲かると打ち出すべき。

農林水産業はもう少し環境を守っていかなければならないと思うので、廃プラスチックの問題やゴミの削減に取り組まないと農林水産業が潰れてしまうと言わなければならないと思う。

農林水産業の問題で重要なのは担い手、そういう観点からは今既に担い手となっている方に、地域等のどういう情報があったら入りやすいか、事前にヒアリングして、窓口を用意してはどうかと思う。

格好いい大人が出てくれば良いと思う。それはここの委員がそうなのではないか。例えば、生産など現場の委員。現場と組んでワクワクするビジネスをする委員。そういった方々が子供向けに夢を語ったら子供は惹かれるのではないか。

PR については、人口が減る中で移住は1つメインになってるが、京都府は世間一般的には排他的で移住しにくいというイメージが定着しているのではないか。一方、京都人は新しいもの好きで色々なものを試そうとする精神をもっており、大学もたくさんあり、実はチャレンジしやすい環境にあるという部分をアピールした方が良いと思う。

PR を考える上で、何を組み合わせるかを考えて推進体制にも組み込んでいく必要があるのではないか。例えば、チャレンジする人には大学との相談や伴走支援がついてくるといったことではどうか。

PR の重要性や責任は大きい。権限と責任のある PR ディレクターが推進体制の中にあると機能を発揮するのではないか。

イメージ図の窓口はサロンにしたほうが良いなどの意見はあるが、こういった検討をする場を作ってほしい。

●座長まとめ

基本的には内容は良くなってきた。実行可能な形に組み上げていただいているのではないか。推進体制については、本日も議論が多かった。今回のビジョンの大きな特徴として良いのではないか。コンテンツは良いが、いかにビジョンを実現するかというところで推進体制は重要になってくるし、もう一度注目して書き込むことが必要で、ビジョンの特徴となる。委員の意見を取り込める部分は取り込めればと思う。

子供にいかに伝えるか、将来のアクションをいかに引き出すかを考えることが必要。ビジョンの周知と、府民のアクションを引き出す PR とは両方大切であり、分けるべき。アウトプットに集中して PR することで訴求力がある。京都府がメディアと WIN-WIN の関係を作りつつ、府が企画するべきとの意見があった。

これまで議論されていなかった観点が意見され、京都府には手直しを検討いただくことが出てきたが、もう一段良くなると思うので検討願いたい。

●閉会あいさつ

PRは予算も関係することなので今後考えていきたい。

3つのコアコンセプトと5つの重点戦略のつながりが分かりにくいとのことでマトリックスがいたと感じた。推進体制も議論が足らなかったと反省している。具体的に推進体制はどこで、誰とするかであるが、予算議論もありどこまで書けるか限界がある。分かりづらいと御指摘いただいた部分は、今後議論して修正していきたい。記載内容についても強調するなど、より理解されやすいようにしていきたい。

もう少し、府民や農林水産業に取り組んでおられる方々に、夢を与えるようなものにすべきというのは私も感じている。5つの重点戦略については、概要が分かりやすいようにキラキラした文字で作り上げたつもりだが全体的にそうっていない部分もあり、もう一度見直したい。

教育については、新たに宇治茶学舎などに取り組んでいるところであるが、海の民学舎など応募者が減ってきている。もっと映像で分かってもらえるようなYoutubeで流すようなこともして内容をビジョンに入れ込まなければならぬかなと思う。先生方にいただいた意見をスパイスとして効かせれば全国トップレベルのビジョンになるなと感じているので、もう少し頑張って取りまとめていきたい。